

曳博だより

SUMMER 2012



曳山博物館 〒526-0059 滋賀県長浜市元浜町 14-8

特別展示「源平布引滝」

館長 中島誠一

曳

山博物館では平成二四年四月二三日から五月二七日まで「源平合戦と近江―源平布引滝」と題し特別展示を行った。「近江を制する者は天下を制する」のたとえのごとく古代から近江で練り広げられてきた戦は数多ある。ここでは浄瑠璃の戦国を扱ったもの、すなわち時代ものの金字塔と云うべき源平布引滝を中心にしたのである。本作品は、寛延二年（一七四九）人形浄瑠璃初演の並木末輔らの合作であるが、好評を得て後に歌舞伎化された。主題は、大きく木曾義賢が平家に攻められて自刃したこと、木曾義仲誕生秘話をめぐる斎藤実盛を中心とした複雑な人間ドラマの展開である。現在上演されるのも、派手な立ち回りと壮絶な最期が見せ場の義賢最期と木曾義仲誕生にまつわる糸紡ぎの段、それをさぐる瀬尾十郎そして別名実盛物語といわれる場面が抜きで上演されるのがほとんどである。本編のモチーフをなす布引滝の場面は登場しないのが常であるものの初段の重要性は次の通り。

平治の乱後、平家に降った木曾義賢は後白河法皇より亡き兄源義朝ゆかりの源氏の白旗を密かに賜る。これを知った平清盛は法皇を恨み、鳥羽離宮へ

押し込める決意をする。そんな父の横暴を案ずる息子重盛は「布引滝中にて平家の盛衰をたずねよ」と夢告を受ける。泳ぎが自慢の家来をその滝壺に潜らせると、竜宮城にすむ女性から「平家の衰亡」を告げられるというのが物語の発端であり、ここから白旗を巡る攻防と木曾義仲誕生を巡る人々の色んな思いが錯綜して複雑な展開を見せていくのである。

平成二十三年四月の文楽公演「源平布引滝」もこの敷衍なしに突然「竹生島遊覧」から始まったので通ではない私は面食らった。琵琶湖の波間に揺らぐ船に近づく一人の女、そして突然切り落とされる腕、この時確かに白旗が見えた！

打って変って鄙びた屋敷。ここに義賢の子を身ごもる葵御前そして源氏の血筋を根絶やしにししようとする平家方の瀬尾十郎、そして源氏に身を寄せたことのある斎藤実盛らが人間曼荼羅を繰り広げるのである。

そして有名な（私は知らなかったが）実盛物語で幕を閉じることとなる。実盛と言えば私が思い起こすのは日本各地で行われている虫送り、実盛と呼ばれる人形を村の境まで送って害虫（雲霞）を駆除する行事である。

舞台では白地唐織唐花文様半腰の装束を着けた

馬上凜々しき実盛が戦場での再会を子どもと期しながら別れ行く。満場の喝采で幕引きとなるのである。

実は「源平布引滝」は名作でありながら長浜曳山祭の子ども歌舞伎では殆ど演じられたことがない。それは無理のないことであり、子ども歌舞伎上演の限られた時間にストーリーを凝縮するのは不可能である。今回の展示ではその無理を演じた名場面を紹介した。また浄瑠璃語りの名調子の中に「近江八景」も歌い込まれているところから大津市歴史博物館、野洲市歴史民俗博物館の「近江八景図屏



展示風景。源平布引滝絵看板や作中に登場する近江八景を描いた屏風、寛延2年(1749)の丸本などで物語の世界を紹介した

サネモリ人形と仮面



風」を展示した。そして庶民の間に伝えられ今も行われている北広島町の実盛送りの関連資料も見ていただいた。また特筆すべきものとして栗東歴史民俗博物館所蔵の「源平布引滝絵看板」がある。これは実盛が腕を生んだ例えを出し「今よりこの所を手孕(てばらみ)村と名づくべし」としたり顔で述べる箇所がある。実はこれこそ東海道石部と草津の間に位置し、街道の町として賑わった近江栗東太郡手原村、現在の栗東市手原であった。展示ではその地名の持つ由来についても紹介した。

以上、子ども歌舞伎の殿堂といふべき本館で近江色満載の浄瑠璃歌舞伎にスポットを当てて陳列をしたことは大きな意義があったと思う。

長浜曳山祭行事・曳山保存専門委員会

長

浜曳山祭行事・曳山保存専門委員会(委員 長・植木行宣)では、各山組からの修理要望に基づいて、修理箇所の現地調査や修理仕様の検討、修理方針の決定など、修理を円滑に遂行できるように適切な助言・指導を行っています。また、曳山の保存や行事の伝承、曳山博物館の活動についても指導を行っています。当委員会は、無形民俗・有形民俗・金工・漆工・建造物・染織・保存科学を専門とする学識経験者七名で構成され、任期は二年です。例年二回開催し、今年度は六月一日に第一回専門委員会を開催しました。

今回の委員会では、今年度の修理状況の確認と来年度および平成二六年度以降の修理要望について協議しました。今年度の修理については、孔雀山(山蔵)・月宮殿(車輪)・青海山(車輪)・常磐山(車輪)が予定されており、どの山組も七月から順次作業に取りかかり、遅くとも年内には全ての修理が完了する予定です。来年度の修理については、各山組からの要望内容を協議した結果、諫鼓山・長刀山・青海山・鳳凰山・高砂山の修理について、国、県および市の補助金を活用して修理を進めることに決

定しました。また、平成二六年度以降の修理要望については、今年度中に事前に現地調査等を実施し、来年度に改めて仕様書の検討や修理方針の決定を行います。
(中山芳章)

曳山祭の映像と調査報告書が完成しました！

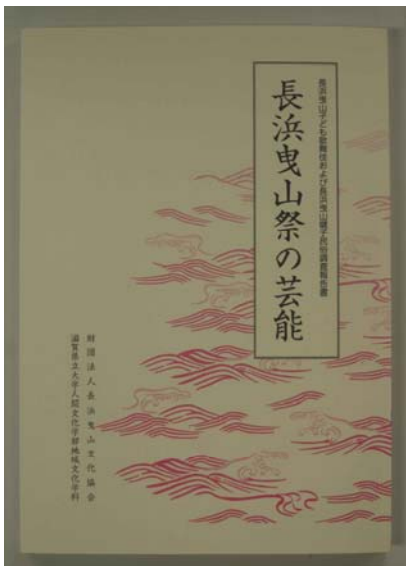
曳

山文化協会では、平成二一年度から三年をかけて、文化庁の支援をいただいて、長浜曳山祭の映像記録の製作と民俗調査を実施し、四本の映像資料と調査報告書が完成しました。映像は、祭り全体の流れを概観した「普及編」(三二分)と、それをさらに要約した「広報編」の日本語版と英語版(各一二分)、子ども歌舞伎に焦点をあてた「曳山子ども歌舞伎編」(五〇分)、シャギリの魅力を伝える「囃子編」(三四分)から成ります。また、これとは別にハードディスクに収められた山組関係者向けの記録編(三〇時間)があります。

今回製作した映像では、これまで記録されることのないなかつた稽古などの舞台裏の撮影も行っています。例えば「曳山子ども歌舞伎編」では、子ども役者たちの稽古の上達の過程を撮っているだけな

く、それを見守る若衆や役者親にもインタビューを行っており、子ども歌舞伎を支える人々のコメントなども収録しています。

民俗調査は、子ども歌舞伎やシャギリといった芸能に焦点をあて、滋賀県立大学の教授や学生たちが調査と報告書を手掛けました。二六〇頁から成り、現状の様子を詳細に記録した「報告編」と祭りの芸能文化の伝承文化のあり方や地域活性化の仕組みを明らかにした「論考編」から成っています。記録には県立大の学生たちが現場で見聞きした「参与観察表」が大量に盛り込まれており、振付師と役者の子どもたちのやりとりなど、時間と場面と内容が克明に記録、再現されているのが特徴です。また、論考編では、例えば「長浜曳山祭の社会的文脈の流



用」の稿では、曳山祭の開催や財政的な支援を獲得するために、その時代時代においてどのような大義(社会的文脈)を採用していたかが、総当番記録をもとに明らかにされています。

私は今回の事業では、海外向けの広報編づくりに少し関わりました。この中では、曳山祭特有の用語(例えば「神前狂言」といったことばです)をどう説明するか、用語自体を残すか残さないか検討を行いました。その結果、広報という位置づけや、見る人への負担、わかりやすさを考慮して、これらの用語については別の一般的なことばで言い換えることにしました。これで少しでも曳山祭のことを知っていたいただければと思います。

さて、今後のこれらの記録の活用方法ですが、映像についてはシンポジウムや勉強会などで上映し、曳山博物館の館内でも常時見られるようにします。広報編については曳山博物館のホームページから見ただけのような準備をすすめています。報告書については県内の全図書館に配布が終わり、これから博物館などの関連施設にも送る予定です。また、こちらは曳山博物館のホームページから各章ごとにダウンロードが可能ですので是非ご覧ください。

(大塚映明)

曳山博物館歴史文化見学会

曳

山博物館では去る五月二十五日（金）神戸の布引滝を訪れた。あいにく天候は曇り空であったが、振らず照らずで小ハイキングには最適の日であった。

車内では本日の見どころ、源平布引滝のストーリー等を事細かく説明した。それもこれも名神高速道路の集中工事のおかげで予定より一時間ほど余分にかかったおかげである。新神戸駅到着は一時三〇分、トイレを済ませ、いざ行かん！歩き出すと最初の目的地雌滝へは約一〇分、この水が今も神戸市民に供給されているんだと話していると「そんなことあるか」と何故か横やりが入る。無視しながら雌滝へ。その光景は古代から連綿と歌い続けられただけあり、高所から悠然と流れ落ちる様はまさに白布が緩やかにねじれ落ちるようである。一同しばし感嘆！平家の滅亡を予告された清盛の落胆が滝壺から聞こえてくるようである。そして一〇〇年を経ようという雄滝茶屋でのお楽しみのお昼食。腹も減って美味しいこと。ところがである。最後のてんぷらがなかなか出てこないのである。女将の出来立て



まさに白布がねじれたように流れ落ちる「布引滝」

を食べてもらおうというプロ意識の産物であった。帰りは古代から謡われた布引の歌碑を見ながらあつという間の戻り路であった。再びバスに乗り今度は歴史館へ。清盛の目論んだ福原遷都も哀れかな！外で記念写真を撮ろうとすると三姉妹の時には長浜へ行つたよと「清盛隊」の大歓迎。そしてドラマ館。清盛の等身大が置いてあつてここだけは撮影可。帰りは長い長い駐車場の道のりも都会ならではの物珍しさであつという間であつた。帰途に就いたのは四時過ぎ。心配した大渋滞もなく豊公園駐車場へ六時三〇分帰着。皆さんのおかげ



編集・発行 曳山博物館
〒526-0059 滋賀県長浜市元浜町 14-8
TEL0749-65-3300 FAX0749-65-3440
<http://www.nagahama-hikiyama.or.jp/>

展示予定

- シリーズ曳山の美―見送幕 常磐山・孔雀山
七月二日（月）～七月二〇日（金）
- 特別展「もう一つの平家物語」
七月二二日（土）～九月二日（日）

追伸

九月ごろ見学会を開催したいと思っております。また募集のチラシをお送りいたしますので奮ってご参加のこと職員一同お待ちしております。

で無事に終了致しました。

（中島誠一）